

Ⅰ 令和7年度 学校経営方針

～ 令和7年度 学校経営（経営活動、教育活動）の重点取組事項の評価 ～

「学校教育目標」の達成と「めざす児童生徒像」の実現に向け、令和7年度重点取組事項を「経営活動の重点」と「教育活動の重点」に整理し、主として前者は、組織をマネジメントする管理職や主任等が、後者は児童生徒の指導に携わる教職員が取り組むものとする。具体的には、各重点取組事項に示す行動計画に則って職務を遂行するものとする。

評価○（成果）

評価●（課題）

① 自立活動の指導力向上 → 評価○

- ・ 自立活動専任の活躍、省察を促す初任者や若手教員と対話の時間を十分に確保した。

② 小・中・高一貫した教育課程の編成と系統性のある指導の充実 → 評価○

- ・ 各部共通で、増やすことよりも、「整理し、精選する」ことを大切にしながら各教科等の年間指導計画を、次の三つの視点から検証・改善を行った。
 - 「各単元の授業時数は適切か」
 - 「1年間で扱う単元数は適切か」
 - 「学部・学年間、教科間の系統性や関連性に改善の余地はないか」

③ 中高一貫したキャリア教育の実現 → 評価○

- ・ 中学部3年生の『高等部作業体験学習』の実現と、「キャリア教育全体計画」並びに「教育課程（職業分野の新単元）」として位置づけた。

④ 児童生徒の特性に配慮した個別最適な学びの実現 → 評価○

- ・ 自閉症児への指導・支援の在り方について全校研究として取り組み、学級経営のユニバーサルデザインの進展や、授業の構造化による支援の工夫につながった。

⑤ 体罰や不適切な指導、事故や事件の根絶に向けた指導の徹底

- 評価○ 体罰・不適切な指導に関する実態調査 結果ゼロであった。(R8.2.16 現在)
- 評価● 交通事故(加害、被害を含め)7件であった。(R8.2.16 現在)

⑥ 積極的な情報発信による、本校教育の広報及び理解・啓発の促進 → 評価○

- ・ 高等部(就業・サービス科)のR8受検倍率2.0倍であった。
- ・ 高等部(普通科)のR8志願者数45名であった。(R7比較で8名増)
- ・ 本校の「自立活動」や「キャリア教育」の教育実践に対し、県外5道県から学校視察があった。

⑦ 対馬分校化(令和9年度)に向けた業務の整理と連携の加速化 → 評価●

- ・ 厳原中学校の校舎工事は順調。
- ・ 準備の最終年度となるR8は、『To Do リスト』に掲げる20項目の実現を目指していく。

⑧ PTAとの連携の強化 → 評価○

- ・ R7を「PTA改革の年」と位置付け、『これからのPTA未来会議』を定期的を実施した。
- ・ R7.12.10のPTA臨時総会で、保護者理事の廃止、専門部の廃止、役員として「活動協力員」を置くことができる規定の新設など、R8から施行のPTA会則等が可決した。

⑨ 保護者の信頼に応える学校事務の運営 → 評価○

- ・ 管理棟を中心に大規模修繕（外壁改修工事と屋上防水工事）が事故等なく終了した。

⑩ 児童生徒や保護者等の信頼に応える安心で安全な寄宿舎の運営 → 評価○

- ・ 「寄宿舎指導員研修会」（県主催）の『事前提出資料』を踏まえ、寄宿舎と管理職、各担任との情報共有や、情報交換の在り方を見える化し、信頼関係に基づいた寄宿舎運営が展開されている。

【備考】

-
- 本年度の学部運営、事務運営、寄宿舎運営、各種委員会や分掌部の運営、研究や研修のほか、各種計画にも反映させるものとする。
 - 学校評価（自己評価等）と関連付けて計画、実施、評価するものとする。

→ 評価○ 各学部、各分掌部、各教職員が、人事評価の自己目標に「重点取組事項に関する内容を一つ以上、目標化してくれていて、各々が達成に向けて一丸となって取り組んでくれた。

2 学校評価の結果と改善策について

(1) 自己評価の結果について

【改善策を検討する視点】

- ① 自己評価表1、2 ⇒ 評価が低かった項目(C及びD)
- ② 教職員、児童生徒、保護者アンケート
 - ・平均値が中央値である2.5ポイントを下回った項目。
 - ・昨年度と比較して、平均値が0.5ポイント以上下回った項目。
※なお、2.5ポイント以上上回っても、0.5ポイント以上下回った項目については検討対象とする。
 - ・「達成度」が75%を下回った項目。
※達成度とは、4段階評価で「4」又は「3」と評価した人の割合。達成度という考え方をを用いると、平均値の比較だけでは見えない評価の内訳を分析することができる。
 - ・教職員及び保護者アンケートの自由記述に同じ意見が複数挙がった項目や、改善策の検討が必要又は望ましいと判断した項目。

① 小学部の取組 **※資料1の1ページを参照**

- ・4段階(A、B、C、D)評価で、評価が低かった項目(C及びD)はなかった。

② 中学部の取組 **※資料1の2ページを参照**

- ・4段階(A、B、C、D)評価で、評価が低かった項目(C及びD)はなかった。

③ 高等部の取組 **※資料1の3-4ページを参照**

- ・4段階(A、B、C、D)評価で、評価が低かった項目(C及びD)はなかった。

④ 高等部対馬分教室の取組 **※資料1の5ページを参照**

- ・4段階(A、B、C、D)評価で、評価が低かった項目(C及びD)はなかった。

⑤ 各分掌部の取組 **※資料1の6-15ページを参照**

- ・4段階(A、B、C、D)評価で、評価が低かった項目(C及びD)はなかった。

⑥ 寄宿舎(舎務部)の取組 **※資料1の16ページを参照**

- ・4段階(A、B、C、D)評価で、評価が低かった項目(C及びD)はなかった。

⑦ 事務部の取組 **※資料1の1-17ページを参照**

- ・4段階(A、B、C、D)評価で、評価が低かった項目(C及びD)はなかった。

⑧ 教職員アンケートの結果 **※資料2の1-2ページを参照**

- ・回答方法は、校務用PCやタブレットPCなどから回答できるように、基本的にwebアンケート(Forms)とし、希望する教職員にはアンケート用紙を配付して実施した。
- ・回答者数は186名(小学部42名、中学部28名、高等部63名、寄宿舎指導員等24名、高等部対馬分教室8名、管理職・事務職員等21名)で、回答率は100.0%だった。休職中の教職員を除いて全員が回答した。
- ・全体集計の平均値は、3ポイント台の範囲にあり(昨年度も同様)、昨年度と比較して、平均値が0.5ポイント以上下回った項目はなかった。
- ・全体集計の達成度は、「4」又は「3」と評価した割合は、8割から9割の範囲にあった(昨年度も同様)。
- ・自由記述には、先生方から意見や要望があった。主な内容は、業務内容の精選に関する事、施設設備に関する事、校内美化に関する事などであった。

(2) 外部アンケートの結果について

①「児童生徒アンケート」の結果 ※資料2の3ページを参照

- ・昨年度から児童生徒の意見や要望を把握するために実施するようになった。あくまで回答可能な児童生徒を対象にし、無記名での回答とした。回答方法は基本的に紙媒体での回答としたが、webでも回答できるようにし、「回答できる児童生徒のみの実施で可」に「回答できる項目のみの回答で可」という条件付けをした上で回答してもらった。高等部の多くの生徒から web 回答をもらうことができた。
- ・回答者数は 236 名(昨年度は 202 名)で、回答率は 72.2%(昨年度は 68.0%)だった。
- ・全体集計の平均値は、3ポイント台の範囲にあり(昨年度も同様)、昨年度から平均値が 0.5ポイント以上下回った項目はなかった。
- ・全体集計の達成度は、「4」又は「3」と評価した割合は、8割から9割の範囲にあった(昨年度も同様)。
- ・自由記述には「学校を楽しくするためにはどうすればいいか、意見や考えがあったら書いてください。」という問いに対し、「友達関係に関すること」や「挨拶すること/声を掛けること」などの意見が多かった。また、自分がしたいことについての要望も数名いた。

②「保護者アンケート」の結果 ※資料2の4、5ページを参照

- ・昨年度からアンケート内容を見直して実施している。回答方法は、個人のスマートフォンから回答できるように、基本的に web アンケートとし、web による回答が難しい保護者にはアンケート用紙を配付するようにした。
- ・全体の回答者数は 288 名(昨年度は 242 名)、回答率は 88.1%(昨年度は 77%)で、昨年度より多くの回答をえることができた。なお、回答者数等の内訳は下の表のとおりである。

※ () 内の数字は、昨年度の数字。

	小学部	中学部	高等部	対馬分教室	合計
児童生徒数	103 (101)	64 (66)	149 (155)	11 (7)	327 (329)
回答者数	95 (82)	51 (48)	134 (109)	8 (3)	288 (242)
回答率	92.2% (81.1%)	79.7% (72.7%)	89.9% (70.3%)	72.7% (42.9%)	88.1% (73.5%)

- ・今年度は昨年度よりも多く 88.1%の回答率を得ることができた。
今年度も昨年度同様、保護者へのお知らせ(学校評価の依頼文)に「回答票」を記載し、それを担任に提出することで未回答の保護者を確認することができ、回答の促しにつなげることができた。
次年度は、アンケート回答率をより 100%に近づけられるようにしたい。
- ・全体集計の平均値は、3ポイント台の範囲であった。(昨年度も同様)。また、昨年度と比較して、平均値が 0.5ポイント以上下回った項目はなかった。
- ・全体集計の達成度は、「4」又は「3」と評価した割合は、9割の範囲にあった(昨年度も同様)。
- ・自由記述の主な内容は、児童生徒への指導や関わり方に関すること、施設・設備に関することなどであった。

(3) 改善策を検討する項目等の選定について

【改善策を検討する視点】

- ① 自己評価表1、2 ⇒ 評価が低かった項目（C及びD）
- ② 教職員、児童生徒、保護者アンケート
 - ・平均値が中央値である 2.5 ポイントを下回った項目。
 - ・昨年度と比較して、平均値が 0.5 ポイント以上下回った項目。
 - ※なお、2.5ポイント以上上回っても、0.5 ポイント以上下回った項目については検討対象とする。
 - ・「達成度」が 75%を下回った項目。
 - ※達成度とは、4 段階評価で「4」又は「3」と評価した人の割合。達成度という考え方をを用いると、平均値の比較だけでは見えない評価の内訳を分析することができる。
 - ・教職員及び保護者アンケートの自由記述に同じ意見が複数挙がった項目や、改善策の検討が必要又は望ましいと判断した項目。

ア 自己評価表1：各部等の取組に関して **※資料1の1-5ページを参照**

4段階評価で、評価が低かった項目（C及びD）はなかった。

イ 自己評価表2：各分掌部等の取組に関して **※資料1の6-17ページを参照**

4段階評価で、評価が低かった項目（C及びD）はなかった。

ウ 自己評価表3：教職員のアンケートに関して **※資料2の1、2ページを参照**

- ・平均値が2.5ポイントより下回った項目はなかった。
- ・昨年度と比較して、平均値が0.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・達成度が75%を下回った項目は、全体集計でなかった。各部別に見ても75%を下回る項目はなかった。

エ 児童生徒アンケートに関して **※資料2の3ページを参照**

- ・平均値が2.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・昨年度と比較して、平均値が0.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・達成度が75%を下回った項目は、全体集計ではなかった。各部別に見ても75%を下回った項目はなかった。
- ・自由記述には、「ここを変えてほしい」という意見はなく、どちらかという「○○をしたい」という要望が多かった。

オ 保護者アンケートに関して **※資料2の4-5ページを参照**

- ・平均値が2.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・昨年度と比較して、平均値が0.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・達成度が75%を下回った項目は、全体集計ではなかった。各部別に見ても75%を下回る項目はなかった。

(4) 選定した項目に対する具体的な改善策について

各部については、評価としては全項目達成している状況である。自己評価が「A・B」評価であっても、課題（●）のある項目でこれまでの取組をより充実させるという視点で改善策を挙げることにした。

【小学部】 **※資料1の1ページを参照**

ア 授業等の工夫について

- ・教材（データ、具体物）を整理して残し活用するため、実践記録のストックの仕方と管理方法・

場所を具体的に決める。

イ 児童の人権に対する意識の向上について

- ・児童を「ちゃん」付けではなく「さん」付けで呼ぶことや、児童への声掛けをする際は、否定的ではなく、前向きで肯定的な声掛けを積極的に行っていく。

【中学部】 ※資料1の2ページを参照

ウ コンプライアンスの遵守について

- ・学部会での服務規律スピーチを持ち回りで実施し、話題にする場面を増やす。

エ 進路指導について

- ・次年度は、高等部の協力で作業体験の時間を増やす予定である。家庭でも話題になる機会が増えると期待する。

【高等部】 ※資料1の3、4ページ参照

オ コンプライアンスの遵守について

- ・コンプライアンスについて生徒が主体的に考えられるよう、教師主導の指導を改め、生徒同士の話し合いや共同作業等を取り入れながら指導する。また、SNSの利用の仕方等（トラブル回避を含む）については、これまで以上に注意喚起をする。

カ 進路指導の充実について

- ・現場実習や進路指導については、学年懇談会等で、進路指導部から説明を行っている。対応が難しいご家庭では説明会に参加していない場合が多いため、「説明会への参加を促すこと」と「参加できていない保護者への十分な情報提供」を充実させていく。

【教職員アンケートから】 ※資料2の2ページを参照

キ 業務内容の精選について

- ・管理職や安全衛生委員会を中心に、各部や分掌部など先生方の意見をくみ取りながら、業務内容の削除やスリム化、移管など具体的に検討していく。
- ・作成した教材やプリント類など、「教材バンク」として共有フォルダ内に整理したり、プリントとして整理したりするなど、より共有しやすいように工夫していく。

ク 施設・設備について

- ・現在、運動場はろう学校の運動場をろう学校及び本校各部と調整しながら計画的に使用している。今後も、ろう学校、本校各部の希望を聞きながら調整し使用していく方向である。

ケ 美化について

- ・一昨年に「虹のホールや多目2などの特別教室のほこりが目立つ」との反省を受けて、毎週水曜日に今年度各部の職員室清掃に加えて各部の清掃担当場所を加え清掃するようにした。今年度はより一層の校内美化に努めてきた。今後とも継続していきたい。
- ・ゴミやほこり、汚れ等に気づいた教職員が、清掃するように一人一人の校内外の美化に対する意識を高めていきたい。

【保護者アンケートから】 ※資料2の4、5ページを参照

コ 児童生徒の指導について

- ・児童生徒の実態をしっかりと把握し、指導に対する言葉掛けや態度が適切かどうか、教職員に対し定期的に確認を行い、児童生徒への適切な指導を心掛けていく。

サ 施設・設備について

- ・今年度は、PTA予算により、作業棟の3教室に空調設備を整備するとともに、作業室等にスポットクーラーを7台設置した。引き続き、子供たちが快適に学べる教育環境整備に努めていく。

(5) 総括について

- ・各部、各分掌部等の自己評価に関しては、「C・D」の評価はなかった。自己評価が「A・B」評価であっても課題(●)のある項目については、これまでの取組をより充実させるという視点で改善策を検討した学部、分掌部等が多くあった。今回の改善策を踏まえ、来年度へ向けて、各部等においては重点目標を、各分掌部等においては重点取組事項を設定し、取組の更なる充実を目指していく。
- ・教職員アンケートについては、いただいた意見を真摯に受け止め、よりよい学校運営生かしていく。
- ・児童生徒向けのアンケートは、可能な範囲で回答してもらった。中学部、高等部の生徒にたくさん回答してもらうことができた。アンケートを実施することで、生徒の意見や要望を把握することができた。
- ・保護者アンケートの回答率は昨年度に比べて大幅に伸びた。昨年度からweb回答していただいている。また、今年度についても依頼文書の中に「回答票」を付け、それを提出してもらうことで未提出者の把握ができ、未提出の家庭には担任から促したり、回答期間中にはtetoruにて回答の協力を依頼する内容の文面を送信したりすることで、回答率の向上につながったと推測される。また、回答期間を過ぎても回答を受け入れるようにしておくことで、期限後も回答する保護者が多くいたことから、より多くの評価が得られると考える。
- ・保護者アンケートの結果について、本校では、中学部のNO.6 進路指導(達成度89.8%)、NO.10 施設設備の整備、安全管理(達成度87.8%)、高等部のNO.5 人権尊重、体罰防止、いじめ防止(達成度88.2%)は80%後半の数値を示していた。それ以外の評価項目の達成度は全て90%以上だった。評価の平均もほとんどが3.5以上だった。数値的には高い評価であった。対馬分教室においては全ての項目において達成度が100%の最高数値の高い評価であった。自由記載について特に意見要望等はなかった。

3 委員からの助言について

【助言の視点】

- ・自己評価の結果の内容が適切かどうか。
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか。
- ・学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか。
- ・学校運営の改善に向けた実際の取組がどうか。

[参考]「学校評価ガイドライン〔平成28年改訂〕(平成28年3月22日 文部科学省)」